

1. 講演内容の抜粋(一部加筆)

「価値創造総合アドバイザー」及び「社会課題を解決する上場企業の支援ファンド」においては、支援先企業の価値向上について、AI/IoT/ITと親和性があり、経営者が内部的に管理する株主価値と社員の幸福度の観点から体系的で一貫した経営概念を通じて、AIの導入効果を測定する目的関数に利用できる「価値判断基準」を提供することが重要と考えます。

そのために、我々は、以下の図で示した **GCC Management™** というフレームワークで、価値判断の要素として、株主価値と従業員の幸福を関連付ける三つの概念、**Growth**(成長)、**Connection**(つながり)、**Confidence**(信頼)、を導入します。以下の図で示すように、三つの概念は、株主価値と従業員の幸福に体系的に連動しており、この概念により株主価値と従業員の幸福の統合的な把握が可能と考えます。また、非財務情報と財務情報を統合した価値計測も体系化が可能となります。



成長・つながり・信頼という3つの要素を通して、株主価値及び従業員の幸福を体系化・数値化し、シンプルで理解しやすく、かつAIの目的関数に利用可能な「価値判断基準」を提供する

より詳細には、以下のように、長期的な方向性、及び戦略・オペレーションの詳細について株主価値と従業員の幸福の視点で統合的に課題を整理し、全社員や一般投資家が理解できるレベルを目指してわかりやすく可視化、体系化していきます。

長期的な方向性				
ミッション, ビジョン		ケイパビリティ		提供する価値
戦略・オペレーション				
従業員の幸福		GCC™	株主価値	
自己実現欲求の充足	有意義な自己実現が可能で、拡大していく仕事の割当	Growth 成長	インベーションと社会貢献 クライアントセグメント 顧客関係 販売チャネル	売上成長の改善 成長の価値
尊厳欲求 社会的欲求の充足	適切な従業員関係 適切なリーダーシップ 適切な社会との関係	Connection つながり	顧客、従業員、 パートナーとの関係 キーアクティビティ・キーリソース キーパートナー	収益性の向上 超過利潤の価値
安全欲求 生理的欲求の充足	適切なトレーニング 環境的・経済的に 仕事に没頭できる環境	Confidence 信頼	ビジネスリスク・利益変動リスク コンプライアンス・金融の安定性 ガバナンス	信頼の向上 株主資本の価値

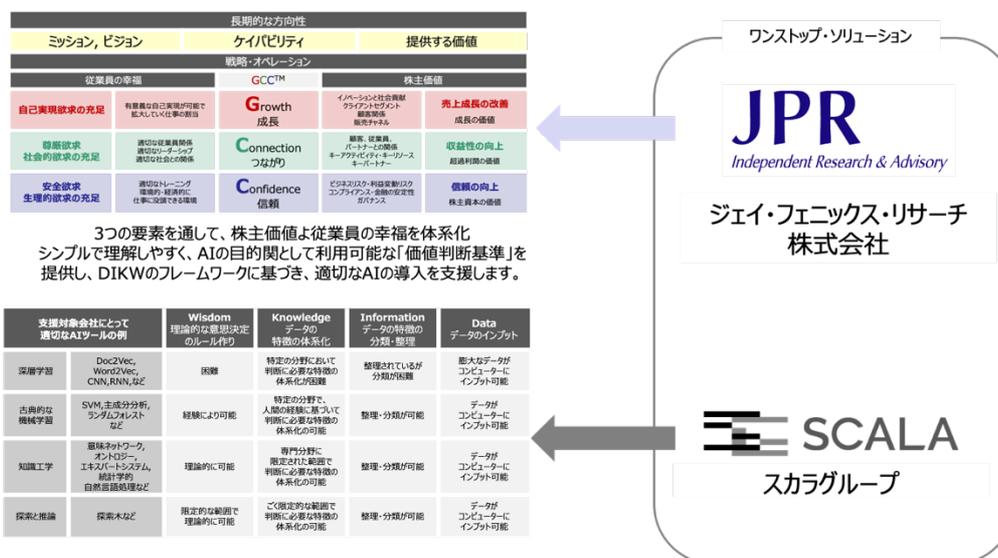
同時に、課題解決のために利用する AI ツールについて、データマネジメントの重要概念、「Wisdom (知恵)、Knowledge (知識)、Information (情報)、Data (データ)」という、いわゆる「DIKW」の視点で整理します。Wisdom (知恵)とは、理論的に意思決定のルールづくりがなされている状態、Knowledge (知識)とはデータの特徴について体系化されている状態、Information (情報)とはデータの特徴が分類・整理

さて、Data(データ)とは、必要なデータがコンピューターにインプット可能な状態について、データマネジメントを体系化する考え方です。DIKWの視点で、適切なAIツールの利用の仕方について体系化した例を示すと以下の表のようになります。

支援対象会社にとって適切なAIツールの例		Wisdom 理論的な意思決定のルール作り	Knowledge データの特徴の体系化	Information データの特徴の分類・整理	Data データのインプット
深層学習	Doc2Vec, Word2Vec, CNN, RNN, など	困難	特定の分野において判断に必要な特徴の体系化が困難	整理されているが分類が困難	膨大なデータがコンピューターにインプット可能
古典的な機械学習	SVM, 主成分分析, ランダムフォレスト など	経験により可能	特定の分野で、人間の経験に基づいて判断に必要な特徴の体系化の可能	整理・分類が可能	データがコンピューターにインプット可能
知識工学	意味ネットワーク, オントロジー, エキスパートシステム, 統計学的自然言語処理など	理論的に可能	専門分野に限定された範囲で判断に必要な特徴の体系化の可能	整理・分類が可能	データがコンピューターにインプット可能
探索と推論	探索木など	限定的な範囲で理論的に可能	ごく限定的な範囲で判断に必要な特徴の体系化の可能	整理・分類が可能	データがコンピューターにインプット可能

例えば、深層学習は、大量のデータがあるが、その特徴が分類・整理がされていない状態において、データの特徴づけし分類し、データの関係性、予測をおこない、意思決定が可能な状態にまで知識を体系化し、経営者の意思決定を支援するケースへの利用が想定されます。ただし、深層学習の構築には一般的には、膨大なデータを予め用意しなければならず、多大なコストと労力がかかる可能性があります。一方で、データが整理・分類・体系化され、意思決定に利用できる状態であれば、意思決定のプロセスを木の枝のような構造で可視化する「探索木」など、構築コストが相対的に抑制できる比較的シンプルなAIツールが有用になると想定されます。経営課題の内容やDIKWの状態に合わせて、適切なツールを選ぶことが重要です。

スカラグループでは、GCC Management™ の概念を通して、以下の図で示したように、株主価値と従業員の幸福を体系化しシンプルで理解しやすく、AIの目的関数に応用できる「価値判断基準」を提供し、DIKWのフレームワークに基づき、適切なAIの選定をおこない、経営計画策定支援からAIツールの構築・運用まで含めたワンストップソリューションを提供します。また、その内容を株主向け開示資料に反映させ、理論的な株主価値の株価への反映を促進し、支援先の時価総額の増大を図ります。



以上